



イヤイヤ期の接し方について話す、てい先生＝大府市のおおぶ文化交流の杜で

「イヤには共感してあげて」

「てい先生」講演

大府市「なごころフェア」

大府市のなごころ保育園が主催するママの応援イベント「なごころフェア」が同市のおおぶ文化交流の杜で開かれ、幼児と保護者ら約三百人が参加した。

なごころ保育園は二〇一八年四月に開園した企業主導型の認可外保育施設。週休三日などの保育士の働き方改革を進めたり、子どもの食育に力を入れたりするなどの特徴がある。

フェアでは、園を監修する関東の現役保育士で「ほ

お…、ここがちぎゅうのほいくえんか」などの著書がある「てい先生」が子どものイヤイヤ期の対応について講演した。

てい先生は二歳ぐらいになってパパやママに負けたくない気持ちが出てくる。それが実現できないから「イヤ」という。まずは共感してあげることが大切」と保護者にアドバイス。また「子どものために何でもやるのではなく、家族の都合に合わせる考え方も必要」と話した。講演の後にはジャズコンサートもあった。（垣見窓佳）